

小牧市認知症初期集中支援チーム活動報告

認知症初期集中支援チームとは

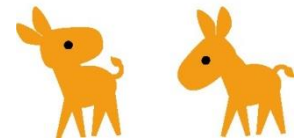
複数の専門職が、認知症が疑われる人や認知症の人及びその家族を訪問し、観察・評価を行った上で、家族支援等の初期の支援を包括的・集中的に行い、自立生活のサポートを行うチーム。

初期

- ・疾患の初期段階の支援
- ・関わりの初期（初動、ファーストタッチ）の支援

集中

- ・訪問による支援を集中的（概ね6カ月）に行い、医療・介護サービス等引き継いでいくこと



小牧市の認知症初期集中支援チーム

チーム数

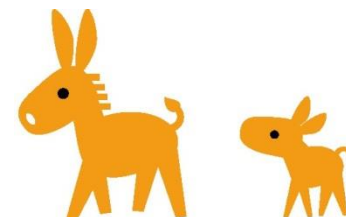
1チーム

配置場所

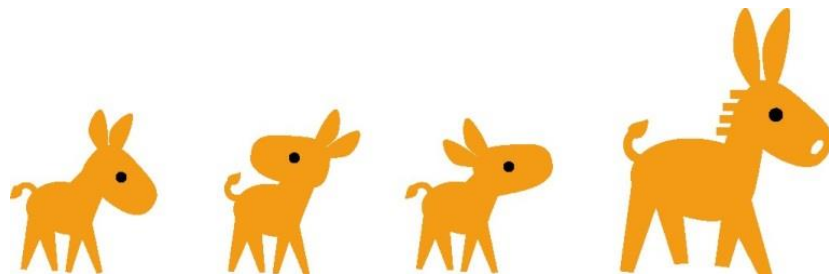
市

チーム員

3名 医師
保健師
主任介護支援専門員



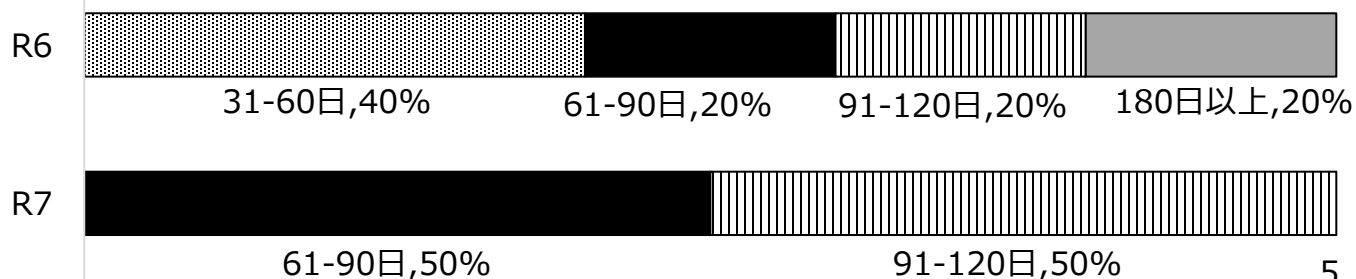
令和6年度及び令和7年度の主な実績



小牧市認知症初期集中支援チームの実績①

	R6	R7
訪問実人数	5人	5人
新規支援者数	4人 ※1人は前年度からの継続	5人
支援終了者数	5人	2人 ※3人は次年度へ継続
訪問延べ回数	36回	32回
1人あたりの平均訪問回数	7.2回	6.4回
決定から終了までの平均日数	88.2日	104日

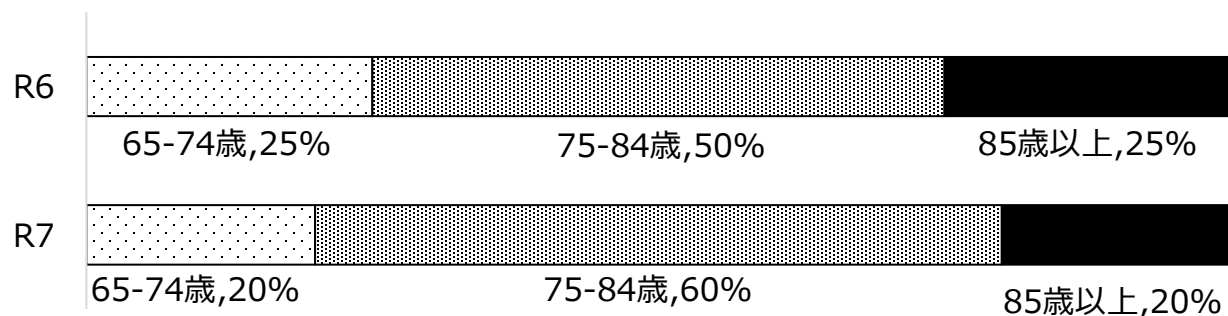
▼決定から終了までの平均日数



小牧市認知症初期集中支援チームの支援対象者

	R6	R7
男女比 ※新規支援者	男 1 : 女 3	男 2 : 女 3
世帯状況 ※新規支援者	独居 : 2 人 高齢者のみ世帯 : 1 人 家族と同居 : 1 人	独居 : 3 人 家族と同居 : 2 人
支援開始時年齢 ※新規支援者	65-74歳 : 1 人 75-84歳 : 2 人 85歳以上 : 1 人	65-74歳 : 1 人 75-84歳 : 3 人 85歳以上 : 1 人

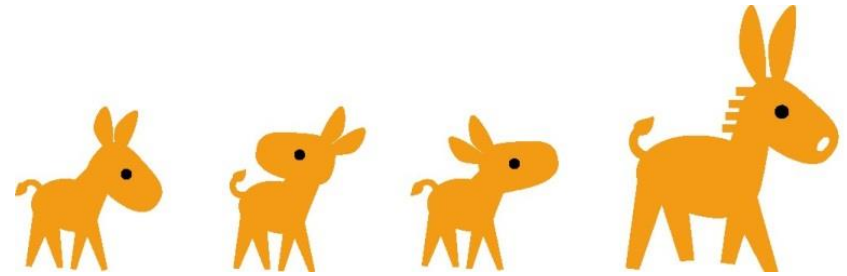
▼支援開始時年齢



小牧市認知症初期集中支援チームの支援対象者の状況

令和 7 年度

	終了時の所在	医療へのつながり		介護へのつながり	
		介入前	介入後	介入前	終了時
1	死亡	受診なし		未申請	
2	在宅	受診なし	⇒ 専門医受診	未申請	⇒ 要介護 1
3	次年度へ継続				
4	次年度へ継続				
5	次年度へ継続				



事例報告

1. 70代男性（独居）

概要

- ・本人が警察に「車を置いた場所が分からない」などと相談がされたことから関わり始めた。
- ・警察の支援で医療機関を受診したが受診は途絶え、介護保険などのサービス利用には強い拒否を示された。
- ・自宅内ゴミがたまっている。エアコンも故障しており、熱中症の危険があった。

対応

- ・夏の時期でもあったため、安否確認も兼ねて毎週訪問。玄関は数センチしか開けて下らず、最低限の日常会話はしてくださるものの突破口がなかった。
- ・部屋の片づけやエアコンの取り付け、医療受診や介護保険サービスには強い拒否があった。生活状況や家の中の状況は伺い知れなかったが、明らかな生命の危機は感じられなかった。

転帰

- ・訪問開始から数週間後、ポストに新聞がたまっており、お亡くなりになっていた。

2. 70代男性（独居）

概要

- ・本人が警察に「車を盗まれた」と相談があったことから関わり始めた。
- ・地域包括支援センターが訪問したところ、本人は物忘れについて気にしている様子があるものの受診は「必要ない」「困りごともない」との反応。

対応

- ・包括支援センターとともに受診勧奨し、認知症専門医の受診、介護認定につながった。
- ・民生委員の見守りや、認知症高齢者等あんしん補償事業、ふれあい・いきいきサロンへの参加などインフォーマルサービスにもつながった。

転帰

- ・金銭管理や受診継続、服薬に課題があったが、デイサービスやヘルパーなどを利用しながら在宅生活を継続している。

3. 70代女性（独居）

概要

- ・アパートの管理会社から家賃の滞納について地域包括支援センターに相談があったことから関わり始めた。
- ・金銭管理が出来ず、光熱費、電話代なども滞納している状況。
- ・自宅内はゴミがたまっている。

対応

- ・訪問に対しては「何しに来たの！」「ふらふらして死ぬからいい！」受診に関しても「どっか悪いところあるってか！」との態度であったが、受診に至った。
- ・訪問開始から数週間後、衰弱している本人を発見し入所となった。
- ・成年後見制度利用に向けて手続きを進めている。
- ・令和8年度に対応継続。

4. 90代女性（家族と同居）

概要

近隣の住民からの「時間を問わず歩き回っている」等と地域包括支援センターに相談があったことから関わり始めた。

対応

- ・本人の食が細く、足腰も立たなくなり、緊急入院。
- ・経過により、今後については検討していく。
- ・令和8年度に対応継続。

5. 70代女性（家族と同居）

概要

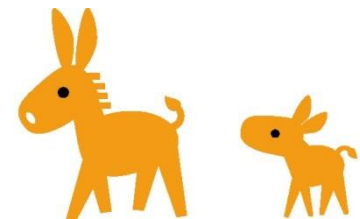
- ・家族が自身の主治医に、本人の認知機能の低下について相談したことをきっかけに関わり始めた。
- ・本人は自宅内の日常生活は自立。困り感はなし。家族は本人の物忘れや怒りっぽさを感じている。

対応

- ・令和8年度に対応継続。

小牧市の認知症初期集中支援チームの課題と展望

- ・認知症初期集中支援チームにあがってくるケースは、支援そのものや医療・介護に対する拒否が強いケースがほとんどである。本人に困り感はないが、すでに日常生活に支障が出て周囲に影響が出ている状況となっているため、医療や介護に接続したとしても長期の在宅生活継続が難しい場合がある。
- ・独居で身寄りがない場合や親族がいても関係性が良くない、遠方に住み支援は難しいなど身近な支援者がいない場合が多い。地域との関係性も希薄である場合が多い。
- ・相談の入り口は地域包括支援センターであり、地域包括支援センターの支援により対応していることがほとんどである。全国的にも地域包括支援センターが支援を行っているため、認知症初期集中支援チームの対象は少ない状況である。把握したケースについての対応は包括が行っているが、相談や把握につながないケースがある可能性がある。
- ・引き続き、認知症の方やそのご家族が住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができるよう対応していきたい。



今後とも、
みなさまのご支援とご協力をよろしくお願いします。



小牧市認知症初期集中支援チーム